

# 会報

No. 75

平成20(2008)年3月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9  
京都府立図書館内  
TEL (075) 762-4655

## 「壁のない図書館」を目指して

国立国会図書館関西館長 和中 幹雄

図書館のあり方が話題になると

き、二十年ほど前に立ち寄った北米の図書館がいつも懐かしく思い出される。夜中まで煌々と明かりの点っていたコロンビア大学図書館、地下街のショッピングの際にいつのまにか迷い込んでしまった街中との区切りのないトロントのメトロ図書館のことなど。駅舎併設の図書館が我が国でもようやく現れてきているように、一般の人々の日常生活のなかに図書館がさりげなく入ってきつつあることがうれしい。

やはりこれも旧聞に属することであるが、電子図書館やペーパーレス社会の到来が先駆的に論じられた一九七〇年代半ばから八〇年代初頭にかけて、「壁のない図書館」という言葉が生み出された。図書館資源へのリモートアクセスのサービスを

そのように名づけたのである。

ところが、書物文化史研究家の気谷誠氏の講演録「懐中のルネサンス」によると、library without walls というこの言葉はラテン語からの英訳で、十六世紀初頭にエラスムスが「アレキサンドリア図書館は狭い壁で囲まれているが、アルドゥスは世界の果ての壁以外には壁のない図書館を建てる」と述べたことに由来しているとのことである。

アルドゥスというのは、ローマ時代の古典を八折版の小型本で出版したことで有名なルネサンス時代を代表する出版者である。大規模図書館でしか利用できなかった貴重な写本が、現代の文庫本のようなハンディな印刷物として、世界の津々浦々まで流布することにより、情報革命が起きるであろうことを語っている。現代の青空文庫やGoogleブック検索などを想起させる話である。

「壁」という言葉で表現されているように、不便な図書館を乗り越える方策として情報革命が語られている。これに対して、図書館はどのよ

うに応えることができるだろうか。

文献を物理的な書庫からサイバー空間に開放することにより、利用者と文献の間にある地理的・時間的な壁は大きく取り除かれ、「いつでも、どこでも、だれでも」利用可能な電子図書館が実現しつつある。しかしながら、二つの大きな課題が未解決のままに残っている。

第一の課題は著作権である。文献がサイバー空間に全面的に開放されるためには、現在の出版モデルではなく、著作者、出版者、図書館、読者の間で合意できる新たな出版モデルが開発されなければならない。

第二は、文献と読者をつなぐ図書館員の新たな役割の開拓である。図書館員は、図書館の壁のなかに閉じこもっているだけではなく、ウェブ上であれ、社会のなかに入っている、読者との新たな関係を取り結ばなければならない。「調べ方案内」や関西館が一昨年から細々と行っている出張利用者ガイダンスはそのささやかな試みである。

図書館の壁は当分なくなりつつある。しかしながら、国立国会図書館といういかにもいかめしい図書館の敷居をできるだけ低くするさまざまな試みを、電子図書館サービスの基地である関西館が最前線に立ち行っていきたいと考えている。



平成十九年度  
京図連協実務研修会

◆北部地区実務研修会に

参加して

舞鶴市立西図書館 竹之内英子

平成十九年十二月二日(日)、みやび歴史の館において、永崎みさと先生を講師にお招きして「ステップアップおはなし会」が開催されました。今回は京都府教育委員会読書ボランティア養成事業対象講座として募集し、おはなしのボランティア、保育士、教師など計九十五名の方に参加いただくことができました。

永崎みさと先生は、現在子育て支援関係の親子遊びや手作り劇場などで活躍されています。講座の前半は永崎先生の実演を見せていただきました。パネルシアターやペープサート、手袋人形など、次々と繰り広げられるおはなしの世界に参加者一同大満足。先生のほらかなお人柄が反映したとても楽しいおはなし会となりました。たくさん紹介したいという先生の思いから随分時間オーバーして始まった後半では、実際におはなし会に役立つ小道具作りに挑戦。紙を折りたたんで作る手

品絵本や封筒でつくる人形、新聞紙の帽子など簡単に作れるおはなしのアイデアをたくさん教えていただきました。盛りだくさんの内容を短時間で仕上げなくてはならなかったの  
で、「えっ次どうするん？わからん！」という声もチラホラ…。  
小道具とともに、演じる上で  
ちよつとしたコツなども教えていた  
だき、とても参考になりました。図  
書館でも実践して、楽しいおはなし  
会にしていきたいと思えます。



◆中部地区実務研修会に

参加して

城陽市立図書館 登立 至宣

平成十九年十月十八日(木)に京

都国際マンガミュージアムにて開催された実務研修会(中部研修)「マンガ文化について」に参加させていただきました。

まず研修の始まりとして、平成十八年十一月に「マンガ」文化を世界に発信するという目的を持って設立されたミュージアム館内の見学をしました。閉校となった元龍池小学校を活用されているということで諸所に小学校の名残が残っている館内には閉店した貸本屋さんから寄贈されたというコミック本と明治以降の雑誌が所蔵されていました。ここで第一資料はコミック本ではなく周辺情報も得られる雑誌であるという事でしたが、この辺が図書館とは違う点だなと思いました。ブックカーではなく、取り外し可能である保存のためのカバー掛けの様子も見せていただきました。本や雑誌そのものを資料とする点など活字情報が資料となる図書館との違いを感じました。

次に、安野侑志さんの街頭紙芝居の実演を見学させていただきました。安野さんは、大阪で資格を持つて長い間街頭紙芝居をしておられた方で、その頃の古い紙芝居「黄金バット」だけでなく子ども達と作った四コマ紙芝居、絵のない紙芝居、言葉のない紙芝居なども演じておられますが、話を読んで聞かせるので


はなく、絵を見せて語るというスタイルで行っておられるそうです。聞き手の反応、声の大小の変化、会話など工夫して興味を引きつける様にしているという事でした。この辺は私たちがする読み聞かせとは違うところが多々ありますが、活用できる  
ところがいけるとあり参考にして  
いきたいと思いました。

定期的にテーマ展示や漫画家や専門家の講演会も行われていますが、このときはちょうど「まんががよむ京都」展の最中でした。

ここは「活字」の図書館と違った面を持って文化を伝える役割を担っているんだと再確認しながら興味深く見学させていただきました。



平成十九年度  
全国図書館大会



◎全国図書館大会に参加して

京都府立図書館 植本 和秀

平成十九年十月二十九日(月)、三十日(火)「つなげよう未来へ、開こう現在を 図書館は力」をテーマに日比谷公会堂をメインにして開催されました。

初日の基調報告では、日本図書館協会理事長の塩見昇氏から図書館法改正や図書館を取り巻く環境についての分析がなされ、あらためて厳しい現状を考えさせられました。

二日目の分科会では、第十九分科会「満足度及び利用効果測定を試み」に参加しました。

文教大学事務局の戸田あきら氏から、大和市立図書館での利用者アンケートを実施して、公共図書館におけるアウトカム評価の分析についての考察が発表されました。

これは、図書館サービスを受けた結果『個人あるいは人々のプログラム活動中あるいは参加後に生じた便益または変化』(長期的な効果)を測定するというものでした。

真に利用者サービスを追求するためには必要な試みであるという印象

を持ちました。

もう一つは、第二十二分科会「公共図書館におけるビジネス支援サービス」に参加しました。

元鳥取県知事の片山善博氏が「図書館のミッションとビジネス支援」と題し、提言されました。

図書館のミッションとは、特別なものではなく、各図書館の状況を取り巻く環境に対応した知的サポートの拠点としての役割が見落とされていくことが多く、この役割が全うされればビジネス支援が成り立つというものでした。

我々は、日常の業務をもう一度見つめることで、見えていない「ミッション」が潜んでいることに気づくのではないかと考えさせられる今回の大会でありました。

平成十九年度  
全国公共図書館  
サービス部門研究集会

◎全国公共図書館サービス部門  
研究集会に参加して

京都府立総合資料館 池田 澄美

平成十九年十一月十五日(木)、十六日(金)に沖縄県で標記研究集会が開催されました。

青山学院大学の小田光宏教授の基調講演「図書館における知の創出」、日本図書館協会の松岡要事務局長の情勢報告の他、事例発表では、東京都立中央図書館の金子寛氏から、都立中央のレファレンス・サービスの概要とレファレンス・ツールの紹介

がありました。自館作成ツールも含めたツールの豊富さとレファレンスを担当する情報サービス課員六十五名、年間レファレンス件数十万件という数字に、改めて規模の大きさを感じました。

草津町立図書館の中沢孝之氏からは図書館の危機管理について、事例を交えた発表がありました。こうすべきというのではなく、あなたの館ではこんなときどうするか、対応マニュアルはあるかと何度も問いかけられ、日頃の備えや訓練が必要なることを痛感しました。

地元沖縄県の読谷村立図書館の福地江美子館長、豊見城市立中央図書館の當間美智子館長からは、小中学生を対象にした図書館見学や職場体験学習、学校に向いて本を紹介するブックトーク等の取り組みについて紹介があり、両館ともに若い職員

の熱意が伝わってきました。事例発表のテーマが多岐に渡り、様々な観点から自館のサービスについて振り返るよい機会になりました。

平成十九年度  
近畿公共図書館  
協議会研究集会

◎近畿公共図書館協議会  
研究集会に参加して

京都市右京図書館 高橋 直子

今年度の研究集会は「生きる力を育む—子どもの読書活動の推進に関する法律の施行から五年」という研究主題で、平成十九年十一月三十日(金)、大阪府立中央図書館において行われ、近畿の公共図書館職員、ボランティア約二百六十名が参加されました。

基調講演では、児童文学者の協明子先生から「生きる力を育てる物語を」というテーマでお話を拝聴することができました。子どもたちが読みたい本、好きな本を提供するに留まるのではなく、子どもたちが大人になるために、心を成長させるために、より積極的に、必要な本をすすんで提供することが図書館員の職務であることが実感いたしました。

午後の事例発表では、東近江市立八日市、奈良市立中央、箕面市立中央の各図書館より、「子ども読書推進計画」策定が、いかにして成されているか、また、成されたかをお話



いただきました。ここでは、行政との連携が不可欠であり、いかに図書館の現状を理解していただくか、その努力を惜しんではならないと感じました。またその計画を実施するにあたって、行政、学校、地域の文庫（ボランティア）との協力、さらに、市民、利用者への周知が大切であると思われました。

集会后は大阪府立中央図書館の見学をさせていただきました。書庫の大きさに驚きますとともに、保存と収集への努力に感心いたしました。今後の図書館活動をすすめる上で、示唆に富む、有意義な研修でした。



### 放課後児童クラブへの本の貸出と絵本読み聞かせ

●京丹波町中央公民館図書室の取組●  
京丹波町中央公民館図書室 湯浅 真弓

京丹波町中央公民館図書室では、放課後児童クラブ（のびのび児童クラブ一組）への本の貸出を行っています。

この事業は、丹波地域で放課後児童クラブが発足してから実施しており、五年前から続いています。毎月第二水曜日に図書室職員が児童クラブまで行き、約四十冊の図書の入替え作業をしています。子どもたちは新しい図書が来るのを楽しみにしています。

図書の貸出を続けることにより、「少しでも子どもたちの読書ばなれを防ぐ一端になれば」と考えています。

また、毎月一回、「抱っこで絵本」と題した読み聞かせ事業を丹波子育て支援センターの主催で実施しています。

毎回、絵本・紙芝居などの読み聞かせと楽しい製作あそびをしていて、地域の乳幼児を持つお母さん方のふれあいの場にもなっています。読み聞かせは、読み手と聞き手が

一緒に物語を広げて感動することができ、絵本は、いのちの尊さや生きることのすばらしさを子どもに伝えることができるすばらしいものです。

これからも京丹波町中央公民館図書室では、この二つの事業を継続していきたいと思っています。

### ブックスタート八幡市の場合

●八幡市民図書館の取組●  
八幡市民図書館 出口 宏子

本市の取り組みは、平成十年十一月から始まりました。健康推進課主催のマタニティスクールでは「乳幼児と絵本」について、三ヶ月児健診時には「子育てと絵本」「読み聞かせのすすめ」というように、司書が出向き講座を受け持っています。さらにフォローアップとして、子育て支援センターと協力し、参加親子に絵本の読み聞かせなどの個別相談に応じています。

ブックスタートは、まさにスタートなのであり、今後その子の成長に寄り添う読書をすすめることが目的で、長期にわたる支援が必要となってきました。それに応えるには、こういった形をとることが、最良である

と考えました。

ブックスタート実施の六百余市区町村の多くは、画一的に同じ本を配布し、読み聞かせのアドバイスをボランティアに依頼するという形で行なわれています。しかし、これはやはり町の図書館の仕事であり、司書がイニシアチブをとって行なうべきという考えが、健康推進課の保健師、子育て支援センターの保育士にも理解されて、「八幡市のブックスタート」は運営されています。今後はブックスタートのフォローアップを進め、小学生・中学生へと継続した読書活動推進をはかりたいと考えています。



# 大活躍ボランティア

## ●向日市立図書館の取組●

向日市立図書館 芦田 穂子

向日市立図書館では三つのボランティア団体が活動中です。それぞれ「読み聞かせ」と「大人の朗読会」、「図書修理」で活躍していただいています。読み聞かせ、朗読は毎回楽しみにしているちびっこや大人がたくさんおられ、図書館の催しにかかせません。一方、本の修理は縁の下の力持ちです。十三人の方々が登録されていますが、月一回の例会時に集合する以外は、週二〜三回、個々に長時間、傷んだ本と向かい合ってもくもくと修理されています。平成十八年度中に修理してもらった本は一二九六冊にもなりました。活動開始時の平成十一年度当初、本の修理技術をもつ方はおられませんでしたが、本の解体作業をこわごわされていたのが印象に残っています。その後、職員手作りの修理ガイドを作ったり、専門の講師を招いて講習会をひらいたり、また各ボランティアさんの努力もあり、高いレベルにまで到達されました。完璧に修理された本はもうこわれません。今は、新しく入られたボランティアさんの指導や講習会の補助、体験学習、実習生の修理指導もしていただいでい

ます。このたび、市制施行三十五周年記念で市制発展に貢献した団体として「読み聞かせ」グループとともに、表彰もうけられました。本当にボランティアさんは、向日市立図書館にとってなくてはならない存在です。



### 読書ボランティア養成講座

#### あきやまだし

#### 「絵本ライブ&講演会」

を終えて

福知山市立図書館中央館 木ノ下典子

福知山市立図書館では、今年度で四回目となる「子ども読書の日」記

念講演会を去る十二月九日（日）に京図連協との共催で『読書ボランティア養成講座』として開催しました。



講師に絵本作家のあきやまだしさんを迎え、一部は、親子対象の「絵本ライブ」、二部は一般成人対象の「講演会」の二部構成としましたが、一部は、申込者が多数のため、急遽、定員枠を倍の二百人に増やして対応したにもかかわらず、受付四日目で定員いっぱいになるほどの盛況ぶりで、講師の人気の高さを実感しました。

当日の絵本ライブでは、たくさんの自作絵本を表情豊かに楽しく読んでいただき、ギターを弾きながら歌あり、パフォーマンスありの大熱演に会場は笑いの渦！

講演会では、絵本の読み聞かせに加え、ご自身の子どもの時代のお話や作品の誕生秘話、作品作りに対する思いなどを話していただき、大人も子どもも笑顔いっぱいであきやまだしワールドを満喫することができました。

普段こういった会に参加が少ないお父さんも今回多くの参加があり、

中には、「絵本がこんなに面白いものだ」と初めて知りました。」という貴重な感想もいただき、大変有意義な講座となったことを主催者として嬉しく思いました。今回のイベントをきっかけに家庭で、地域で、さらに読み聞かせの輪が広がればと願っています。



また、今後も京図連協との共催事業として、ぜひ府内読書施設で有意義な講座が開催されることを期待しています。



## 第三回理事會報告

平成十九年度第三回理事會が一月二十四日（木）府立図書館において開催されました。

小山会長挨拶の後、今年度事業実施について○読書ボランティア養成支援事業○第七回「子ども読書絵てがみコンテスト」○各専門委員会活動状況等についてそれぞれ報告されました。

続いて、○今年度総括○次年度事業計画及び予算○次年度の理事会及び専門委員会の体制等について協議されました。

京都府教育委員会からの委託事業である読書ボランティア養成支援事業は、京図連協主催で行った北部ブロック事業のみならず各図書館で開催された共催事業も大変好評であり次年度の存続が期待されています。

また、定期総会は四月中旬に開催する方向で進めることとなりました。

その他、○京都府図書館総合目録ネットワークの現況○図書館・読書施設等職員研修実施報告○連絡協力車の次年度巡回コース変更（案）○京都市の右京中央図書館の開館予定○国立国会図書館の第十五回総

合目録ネットワークフォーラムでMeetingについて報告されること等について報告、情報交換がされました。

### ★専門委員会ニュース★

#### ◎研修研究委員会

◆読書ボランティア養成支援事業対象講座「ステップアップおはなし会く小道具で広がるおはなしの世界」(兼・北部地区実務研修会)の報告

十二月二日（日）に九十五名の参加を得てみやび歴史の館において開催しました。講演では実演を交えながらパネルシアターの演じ方など説明されました。実技では、新聞紙や封筒など身近にあるものを使った小道具作りの説明がありました。参加者からは、「おはなし会などの活動に生かしていきたい」などの声がかれ、子どもの読書活動への意欲が高まった研修会となりました。

#### ◆南部地区実務研修会の報告

「インターネットでレファレンスくはじめの一步」と題し、二月八日（金）二十名の参加を得て、京都府

総合教育センターにて開催いたしました。講演では、国立国会図書館関西館の大山聡氏から、インターネットレファレンスの概要や今後の諸課題について解りやすく説明を頂きました。

参加者は、新しい図書館サービスの円滑な展開を図る上で大いに参考になった様子で、熱心に耳を傾けられ充実した研修会となりました。

#### ◎相互協力委員会

平成十九年度第一回相互協力委員会が平成十九年十一月八日（木）に府立図書館において開催されました。

主な内容として、京都府図書館総合目録ネットワーク関連では、ログイン後の状況（処理速度の遅延への対処）、応答時間の制限設定による検索打ち切りや検索画面での中央館設定等の説明があり、次期システム更新を見据えたアンケートの予定について、内容等意見が出されました。その他、府内一冊のみ所蔵図書については、所蔵冊数調査結果（昨年度未実施）と保存に関するガイドライン（検討中）、第七回「子ども読書絵てがみコンテスト」の実施についての報告がありました。

なお、平成十九年度については、

拡大相互協力委員会を実施しないこととなりました。

#### ◎広報委員会

平成十九年度の第三回広報委員会を、一月十日（木）に京都府立図書館で開催し、会報七十五号の編集等について協議を行いました。

現メンバーでの編集は今回が最後で、次号からは新しい広報委員による編集となります。

### 編集子

新たな図書館サービスを展開する上で参考となる紙面づくりに取り組んで二年が経ちました。

「インターネット予約サービス」「図書館利用促進のための取り組み」については大変参考になったという声を聞き、メンバー一同喜んでおります。今後とも各館が情報交換をして、住民のサービス向上が図られたらと思います。

最後になりましたが、執筆や紙面づくりにご支援・ご協力をいただきました皆様には厚くお礼を申し上げます。